

主 文

本件特別抗告を棄却する。

理 由

本件特別抗告の趣意は末尾書面記載のとおりである。

本件予備的訴因追加申立に対する異議申立を却下し、予備的訴因の追加を許可する旨の決定のごとき、「訴訟手続に関し判決前にした決定」は刑訴四三三条一項にいわゆる「この法律により不服を申し立てることができない決定」にあたらないものである（昭和二六年（し）第七一号同二八年一二月二二日大法院決定、集七卷一
二号二五九五頁、昭和二九年（し）第三七号同年一〇月八日第三小法院決定、集八
卷一〇号一五八八頁、昭和三二年（し）第五五号同三三年四月一八日第二小法院決
定、集一二卷六号一一〇九頁各参照）。従つて、所論判例違反の主張につき判断す
るまでもなく、本件特別抗告は不適法として棄却を免れない。

よつて刑訴四三四条、四二六条一項により、裁判官全員一致の意見で主文のとおり決定する。

昭和三六年二月七日

最高裁判所第三小法廷

裁判長裁判官	高	橋	潔
裁判官	島		保
裁判官	河	村	又 介
裁判官	石	坂	修 一